



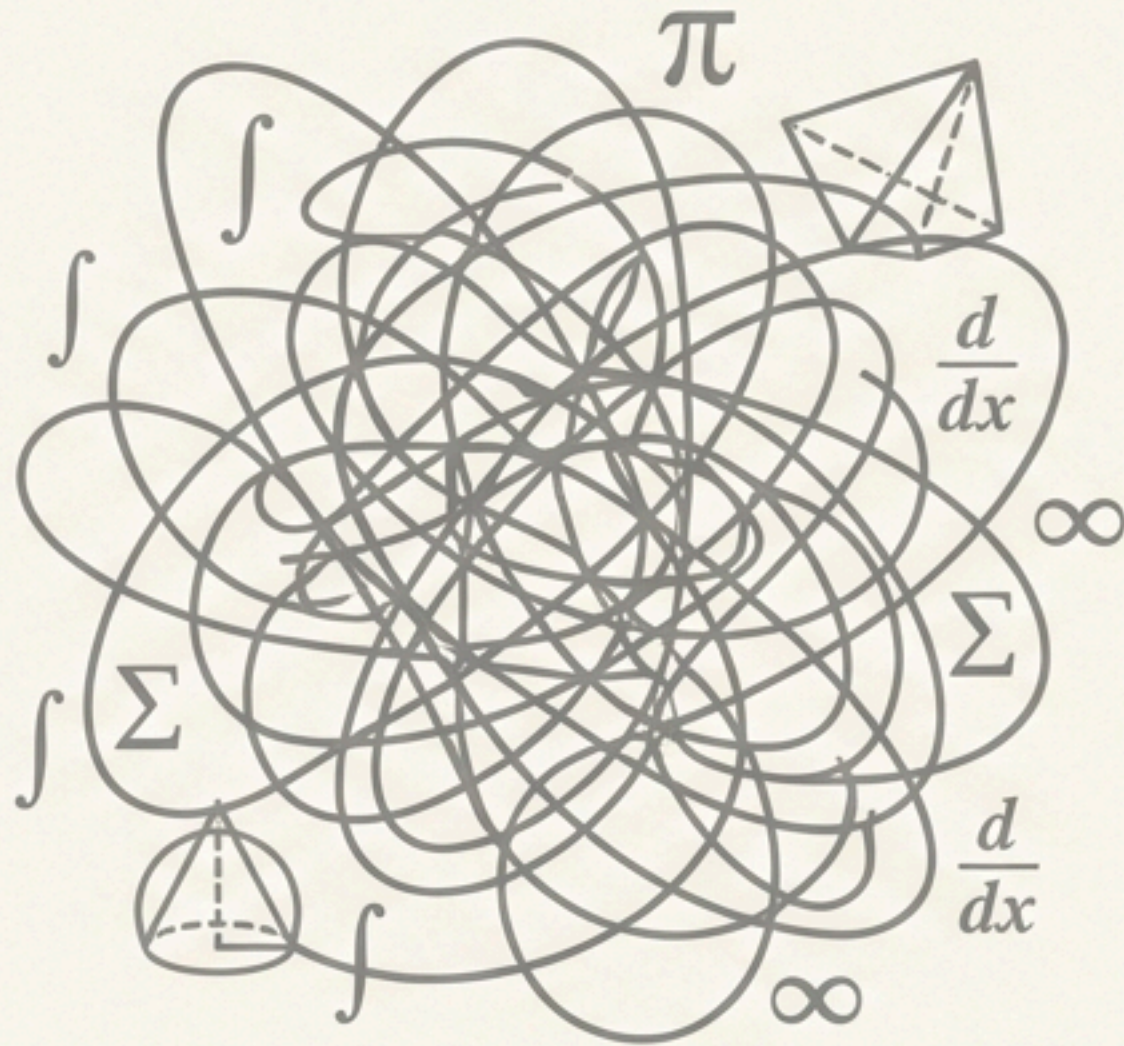
投資に必要なのは「高いIQ」ではない

資本市場を生き抜くための、道（TAO）と人間力の哲学

Based on the principles of Taoism in Investing



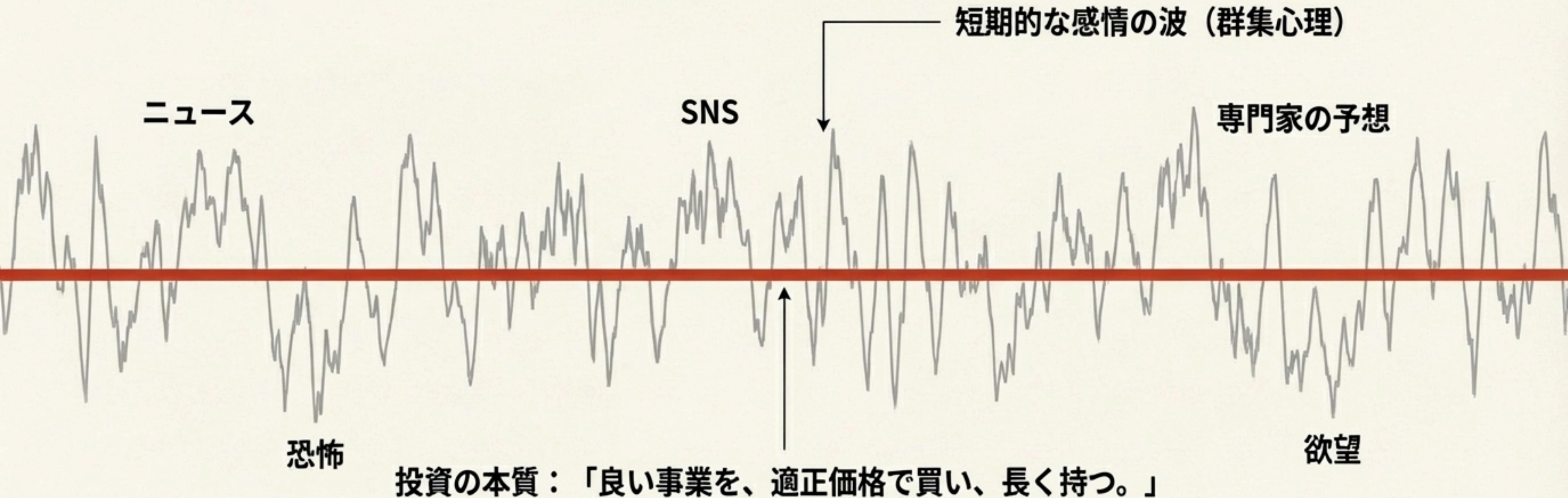
幻想と真実



「頭が良くなければ勝てない」
「特別な才能が必要だ」 —
多くの人を抱く投資への誤解。

世界最高の投資家、
ウォーレン・バフェットは語る。
投資に高いIQは必要ない。
真に求められるのは、
「群衆から自分を切り離す能力」である。

市場のノイズと、本質の線

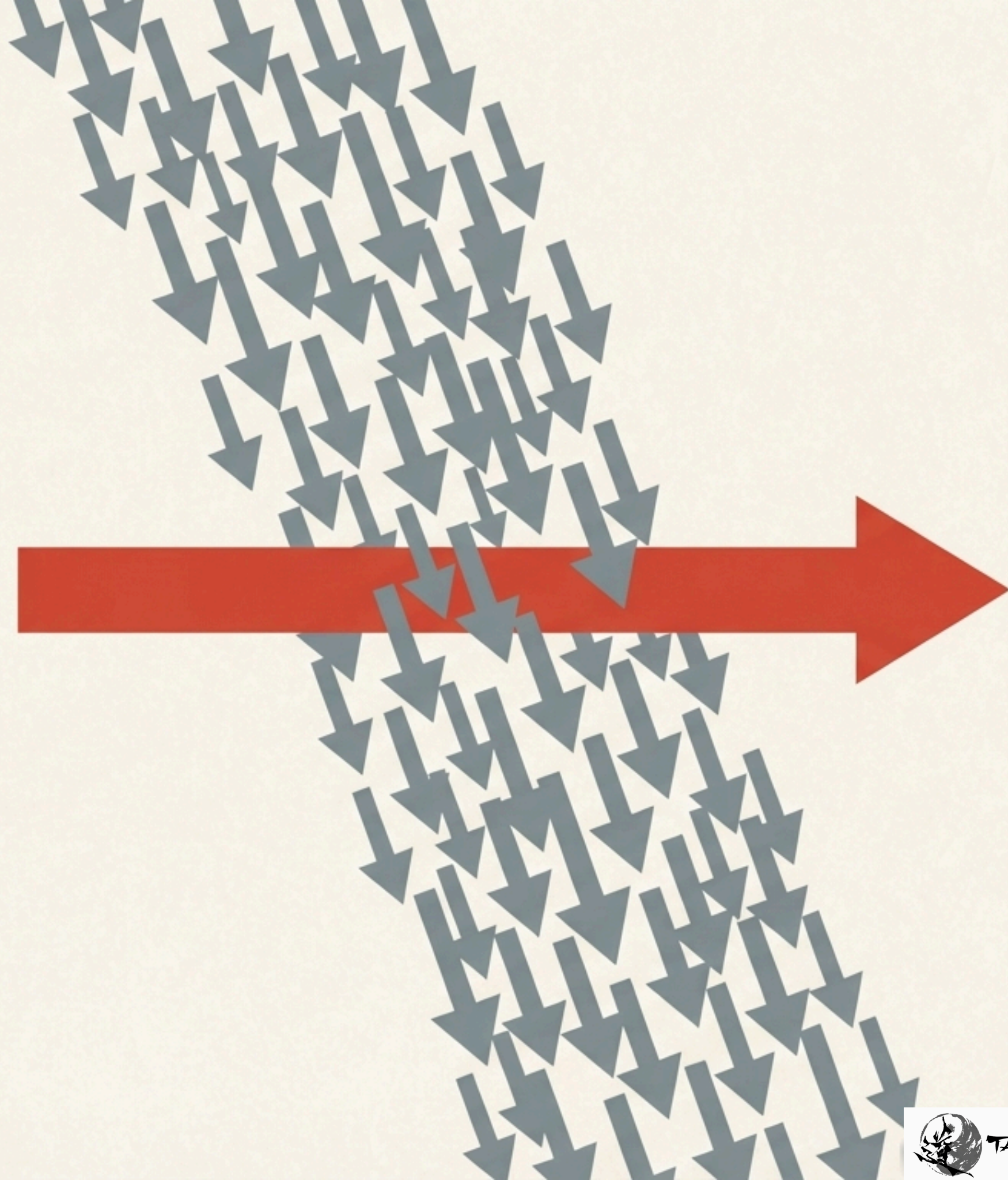


投資の本質は極めてシンプルである。
理屈を理解し、決して感情に支配されないこと。

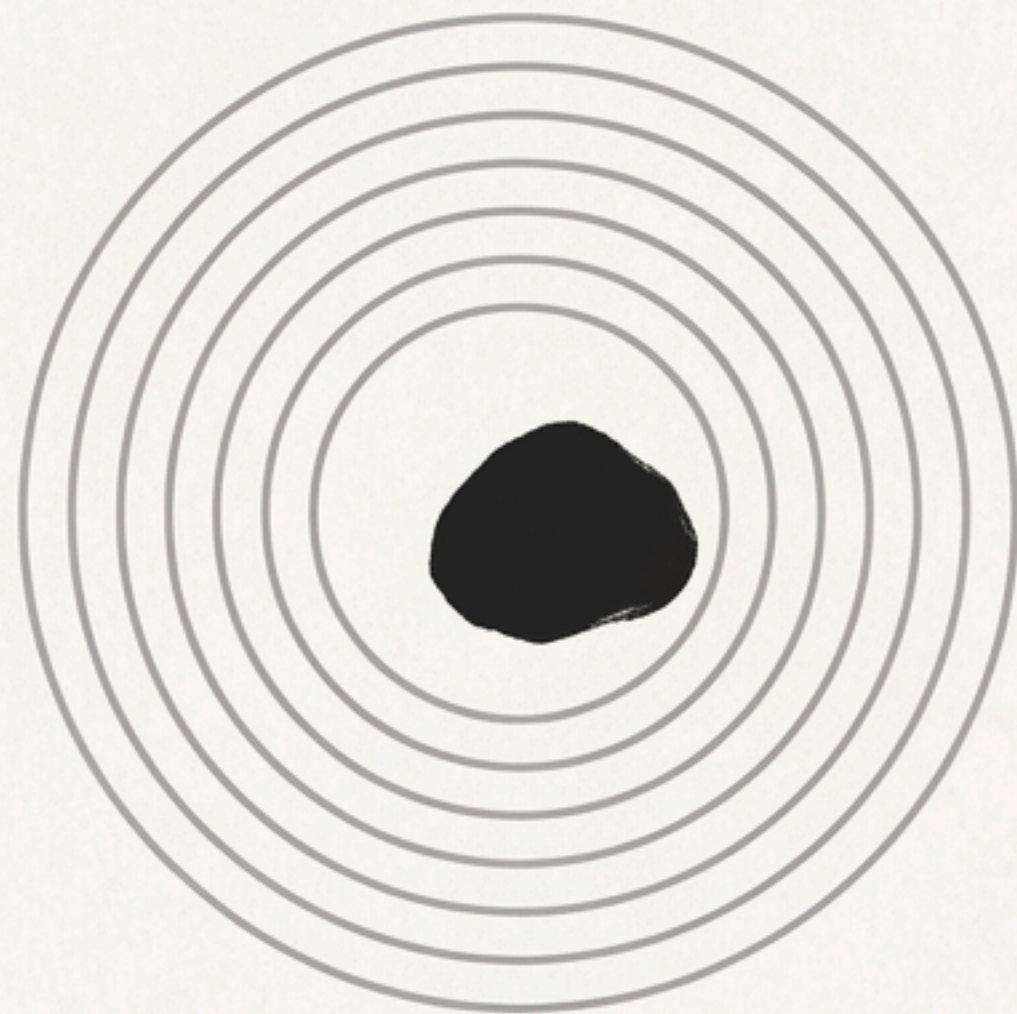
知識を破壊する「群衆の引力」

投資の世界では、知識より感情が人を破壊する。暴落時に恐怖で売り、高騰欲望で買う。これは理屈ではなく「感情」のしわざである。

- 安いときに買い、高すぎるときに売る（簡単な理屈）
- しかし、群衆の中にいると自分の判断が揺らぐ（現実の行動）



思考の習慣が現実を理解する力となる



「人は『なぜそれが起きるのか』を考え続ける習慣を持たなければならない。」
— チャーリー・マンガー (Charlie Munger)

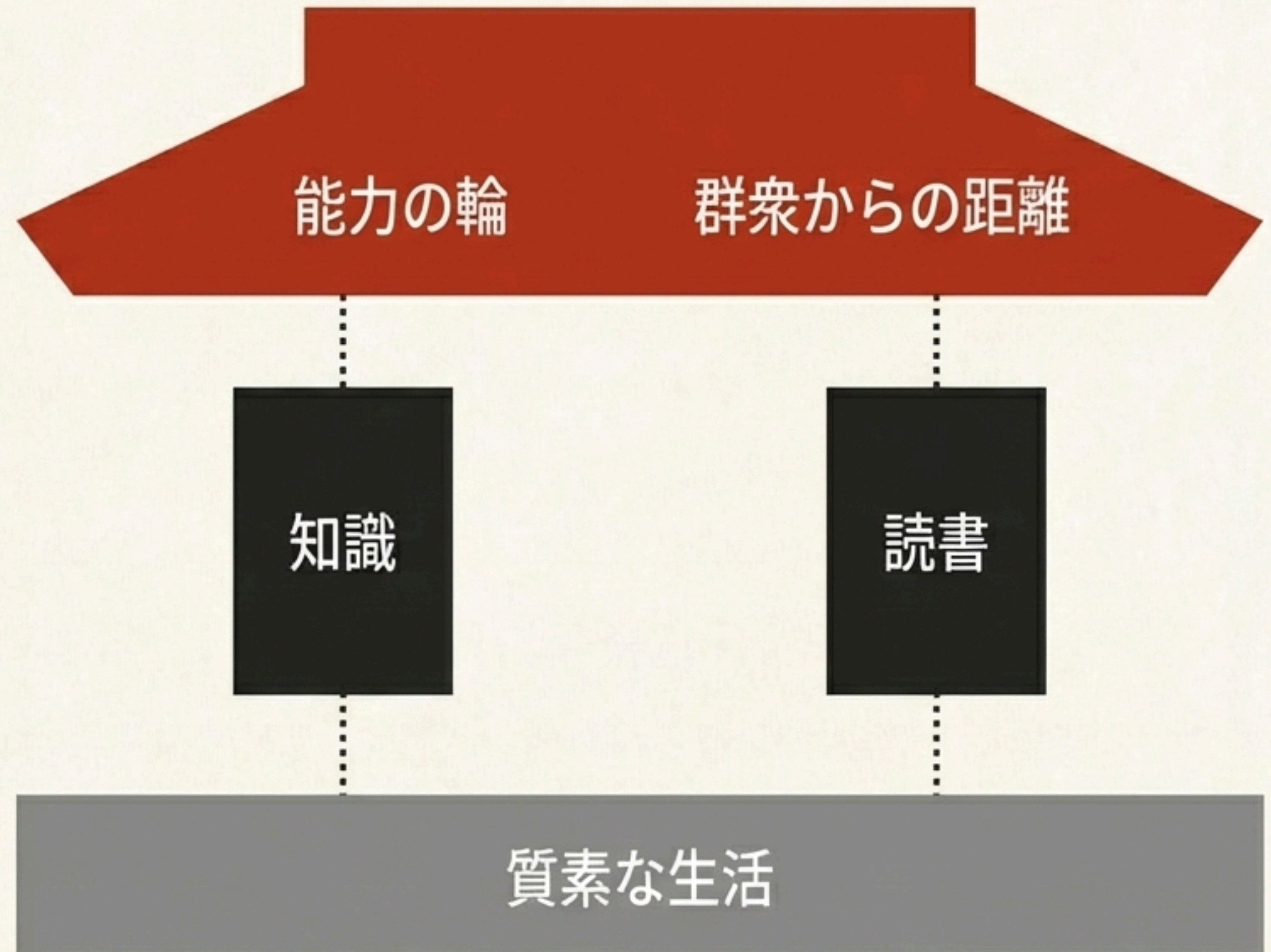
群衆に流されず、事象の背後にある「理屈」を問い続けること。
これこそが、現実を正しく捉え、投資の理性を保つ唯一の盾となる。

凡庸な投資家 vs 道を極める投資家

凡庸な投資家		道を極める投資家
感情（恐怖と欲望）	判断基準	理屈（適正価格と長期保有）
ニュース・SNSの流行	情報源	会計知識・歴史的な良書
群衆に同調し、揺らぐ	行動パターン	群衆から距離を置き、静観する
派手な短期利益の追求	目的	徳の修練と長期的な本質的価値の獲得

感情に打ち勝つ「5つの実践」

日常の中で何をすべきか。
投資家の土台を作るための、
相互に作用する実践の体系。
慢心を防ぎ、静かな判断を下す
ための「道（TAO）の構築」。



実践 ①・② 思考の土台を築く



① 知識を積む

会計、事業、経済。ビジネスの言語を深く理解する。表面的なテクニックではなく、企業活動の骨格を知る。

② 読書を続ける

良い本は何十年経っても価値を失わない。絶え間ない読書によって蓄積された知識は、市場の嵐に耐えうる「思考の土台」となる。

実践③ 能力の輪を知る

「理解できないものには手を出さない。」

世の中にある情報・投資対象

自分が本当に
理解している領域

これは決して弱さではない。
自分自身の「理屈の理解」がどこまで及んでいるかを正確に把握する、極めて高度な知性である。赤い境界線の内側に留まる規律が身を守る。

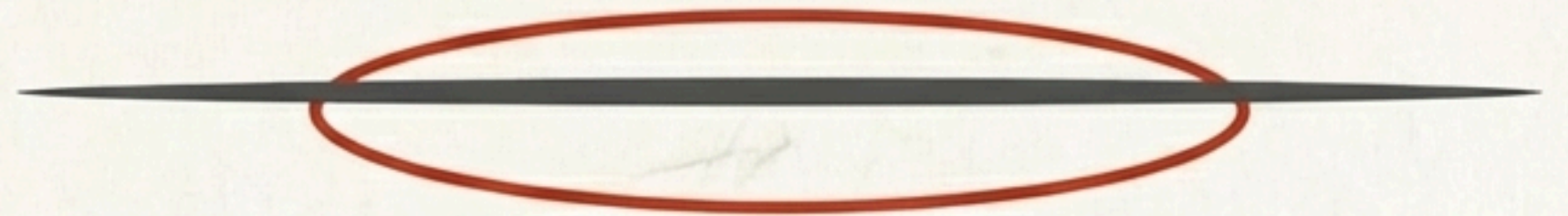
実践 ④・⑤ 静寂と資本の生成

④ 群衆から距離を置く

ニュース、SNS、流行。これらに振り回されず、静かに考える時間を確保する。ノイズを遮断することが、本質を見抜く第一歩。

⑤ 生活を質素にする

収入以下で暮らす。これは投資テクニック以前の「徳」である。資本は、派手な成功からではなく、静かで規律ある「習慣」によって生まれる。



慢心を戒める「五省」（自己診断）

人は必ず慢心する。だからこそ、常に自分自身に問いを投げかけ、
現在地を確認しなければならない。



自分は本質を見ているか？



理屈を理解しているか？



徳を失っていないか？



知識を積んでいるか？



共同体の役に立っているか？

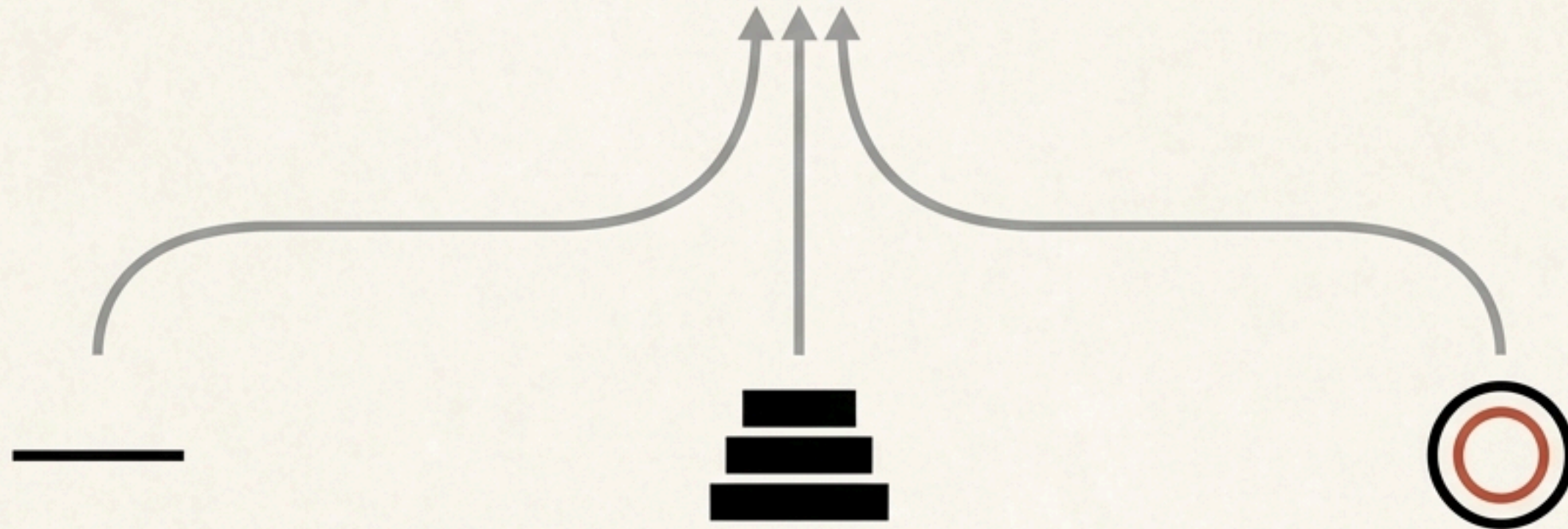
投資とは、人間力の修行である

高いIQを求める旅は、最終的に

「自己を整える」という哲学に辿り着く。

人間力

本質を見抜き、理屈を理解し、感情を制御する。
知識を積み、瞑想のように静かに考える。
投資とは単なる頭の良さの競争でも、
資産形成の手段でもない。
自己の気質を鍛え上げる、
生涯にわたる「人間力の修行」である。



稽古照今と「道（TAO）」

過去から学び、今を正す（稽古照今）。
投資の究極の目的は、ただお金を増やすことではない。
徳を磨き、自分を整え、共同体と共に歩むこと。

誰かのために生きるとき、富は自然と意味を持つ。それこそが、投資における真の道（TAO）である。

